

大阪市在宅医療・介護連携推進事業に関する 医療施設等アンケート調査報告書(概要)

調査概要 在宅医療・介護連携推進事業の現状把握に努めるとともに、医療と介護の連携のうえでの課題整理と事業評価の基礎資料とすることを目的に、医療側に着目したアンケート調査を実施した。

調査方法 対象施設へ調査票を送付し、郵送、FAX、Web、メールにより回収を行った。

調査期間 令和6年10月30日から令和6年12月6日まで

調査対象・回収結果

対象施設	対象数	回収数	有効回答数	有効回答率
病院	173	107	107	61.8%
在宅療養支援診療所(在支診)	747	460	460	61.6%
在宅療養支援歯科診療所(在支歯診)	340	196	195	57.4%
在宅患者訪問薬剤管理指導料届出薬局(訪問薬局)	1,654	1,251	1,251	75.6%
訪問看護ステーション(訪問看護)	777	494	494	63.6%
合計	3,691	2,508	2,507	67.9%

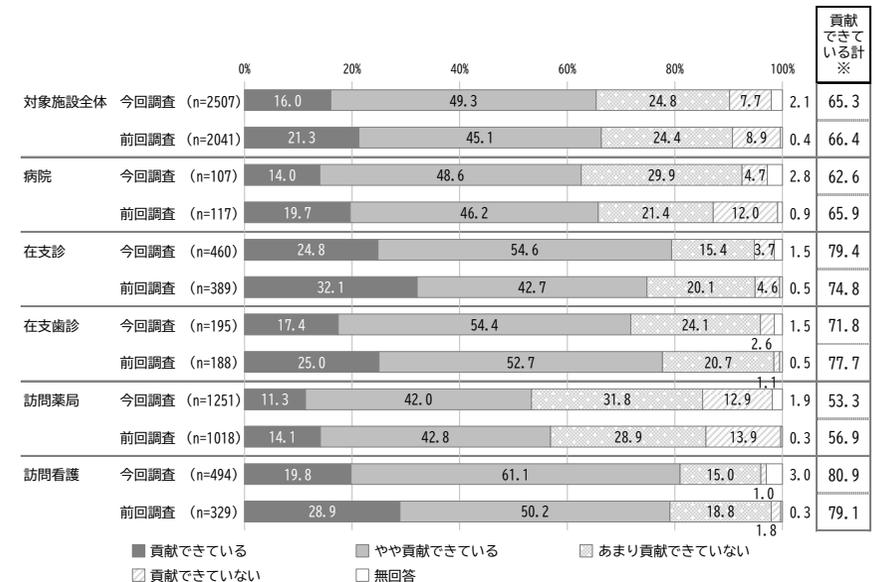
調査結果

① アウトカム指標

貢献度

地域の在宅医療の推進に対して、どのくらい貢献できていると思いますか

▶ 「貢献できている」「やや貢献できている」の合計 **65.3%**



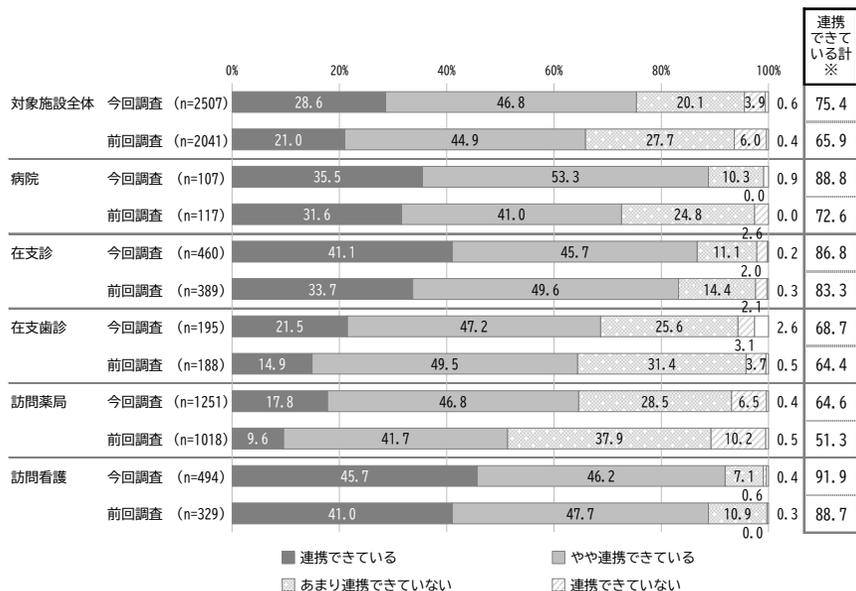
※ 「貢献できている」「やや貢献できている」の合計

- 施設全体では65.3%。施設別では、訪問看護が80.9%、在支診が79.4%、在支歯診が71.8%、病院が62.6%、訪問薬局が53.3%の順である。
- 施設全体では前回調査と同程度である。

連携度

地域の他職種・他機関と、全般的に、どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか

▶ 「連携できている」「やや連携できている」の合計 **75.4%**



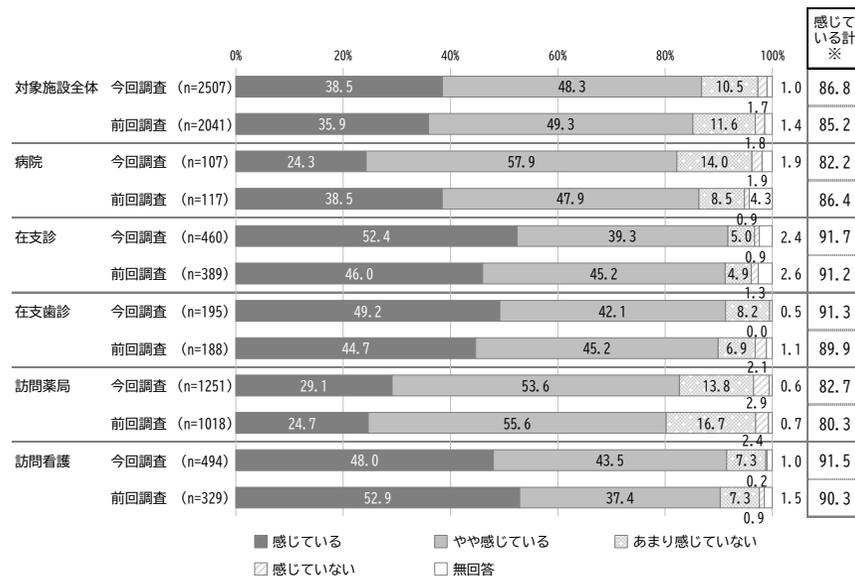
※ 「連携できている」「やや連携できている」の合計

- 施設全体では75.4%、施設別では、訪問看護が91.9%、病院が88.8%、在支診が86.8%、在支歯診が68.7%、訪問薬局が64.6%の順である。
- いずれの施設でも前回調査より増加、特に病院と訪問薬局で増加している。

満足度

あなたは、貴施設での仕事に満足感を感じていますか

▶ 「感じている」「やや感じている」の合計 **86.8%**

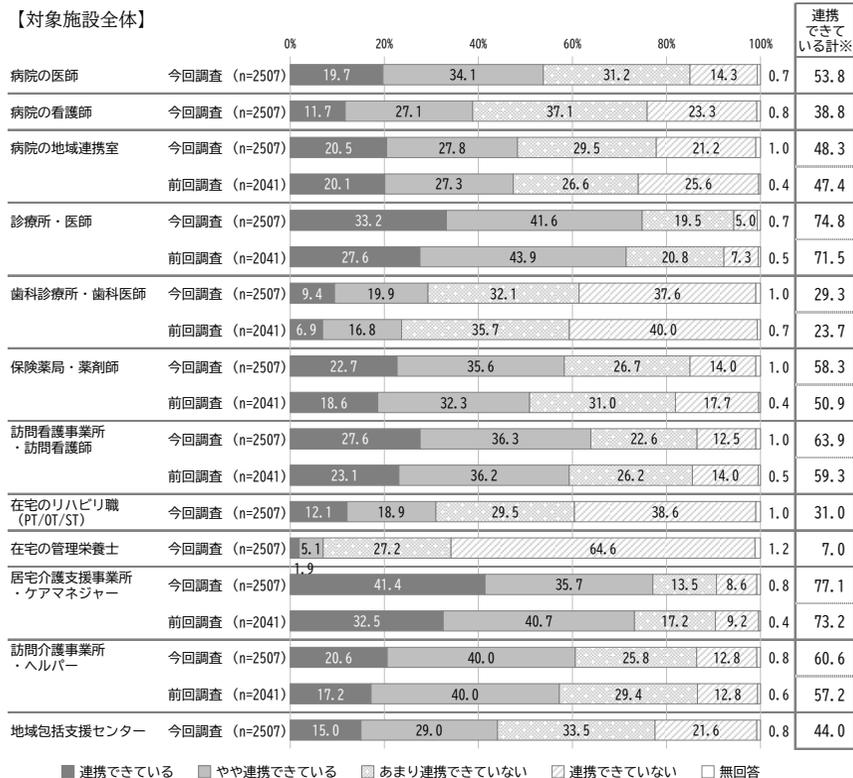


※ 「感じている」「やや感じている」の合計

- 施設全体では86.8%。施設別では、在支診が91.7%、訪問看護が91.5%、在支歯診が91.3%、訪問薬局が82.7%、病院が82.2%の順である。
- いずれの施設でも前回調査と同程度である。

職種・機関別連携度

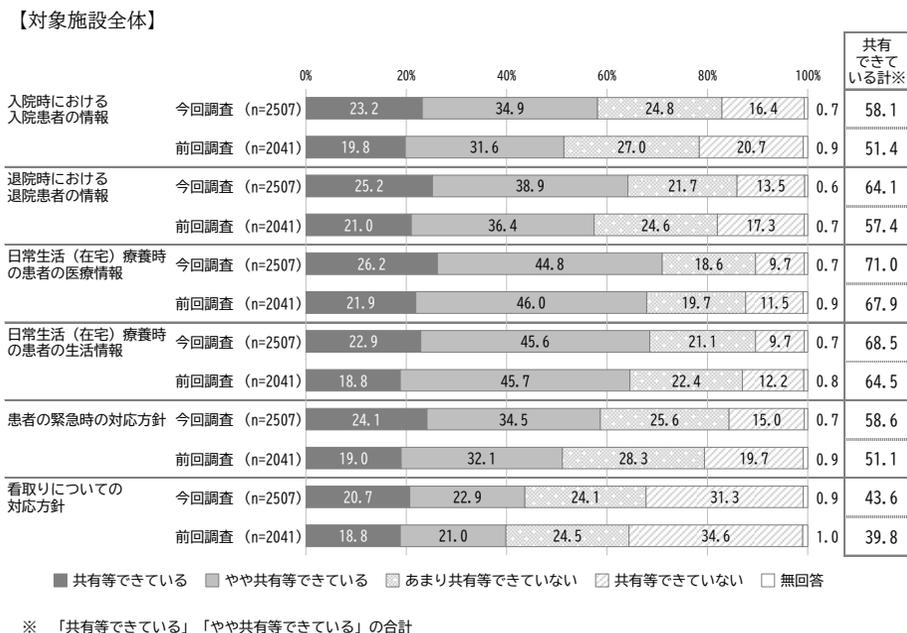
地域のお他職種・他機関と、どのくらい連携できていると思いますか



- 「連携できている」「やや連携できている」の合計は、「居宅介護支援事業所・ケアマネジャー」、「診療所・医師」、「訪問看護事業所・訪問看護師」の順である。
- 「保険薬局・薬剤師」、「歯科診療所・歯科医師」が前回調査より増加している。

療養場面別連携度

患者の在宅療養における各場面において、地域のお他職種・他機関とどのくらい各種情報についての意見交換・共有ができていると思いますか

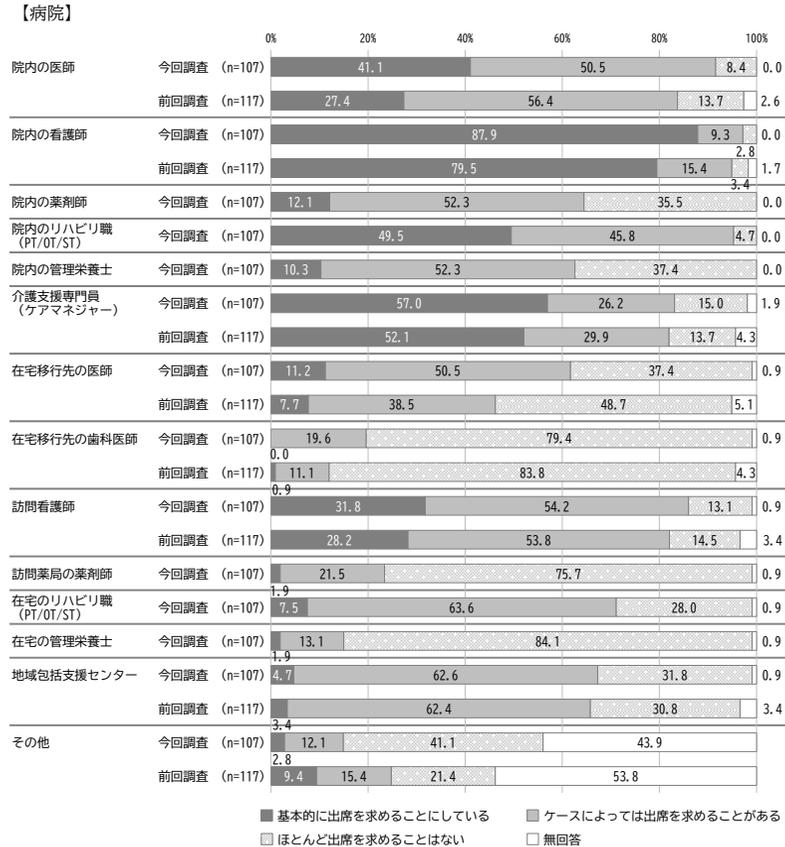


- 「共有できている」「やや共有できている」の合計は、「日常生活療養時の患者の医療情報」、「日常生活療養時の患者の生活情報」、「退院時における退院患者の情報」、「患者の緊急時の対応方針」、「入院時における入院患者の情報」、「看取りについての対応方針」の順である。
- いずれの場面でも前回調査より増加している。

② プロセス指標

入退院カンファレンス

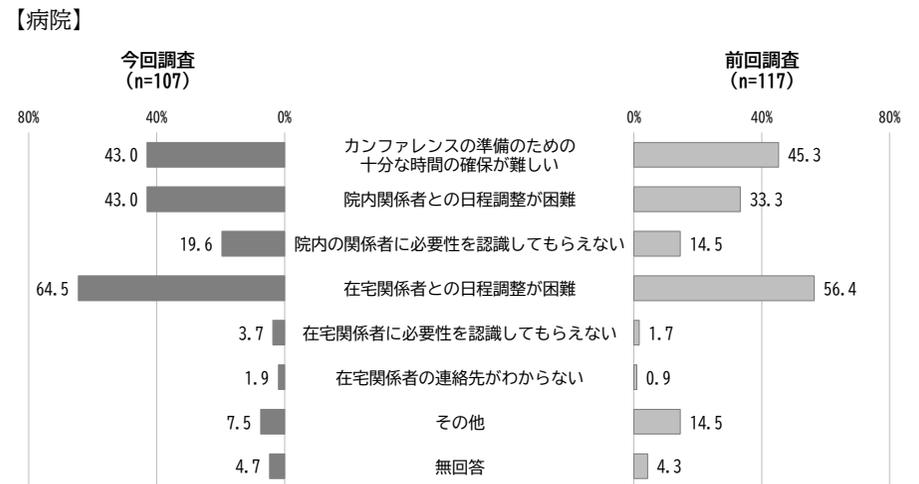
病院での入退院カンファレンスにおける、各職種への出席要請に関する方針について



- 「基本的に出席を求める」割合は、「院内の看護師」が87.9%、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が57.0%、「院内のリハビリ職」が49.5%、「院内の医師」が41.1%の順である。
- 「院内の医師」が前回調査より増加している。

入退院カンファレンス

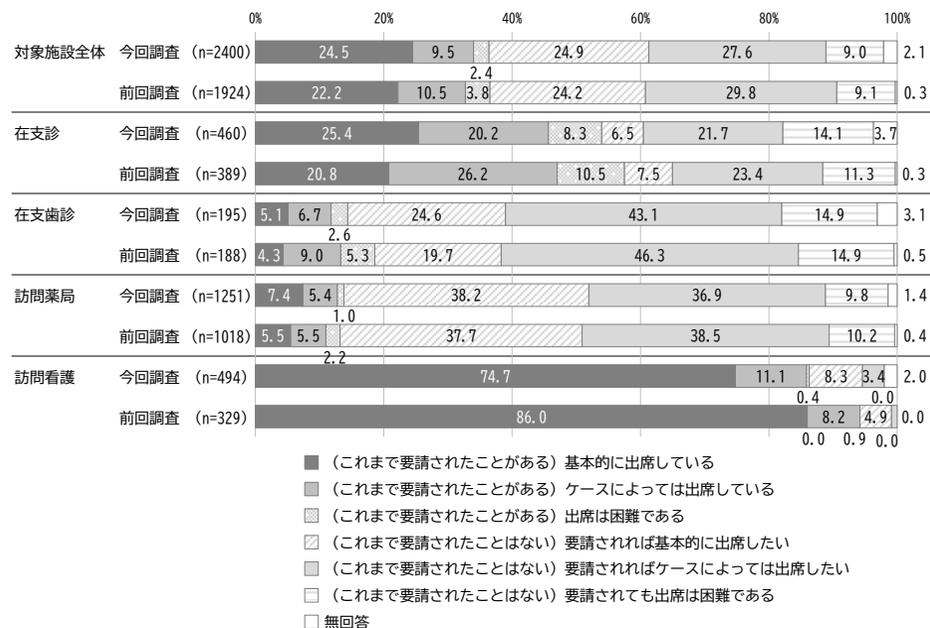
入退院カンファレンス開催にあたり特に課題となっていることについて（複数回答）



- 「在宅関係者との日程調整が困難」が64.5%、「カンファレンスの準備のための十分な時間の確保が難しい」、「院内関係者との日程調整が困難」が43.0%の順である。

入退院カンファレンス

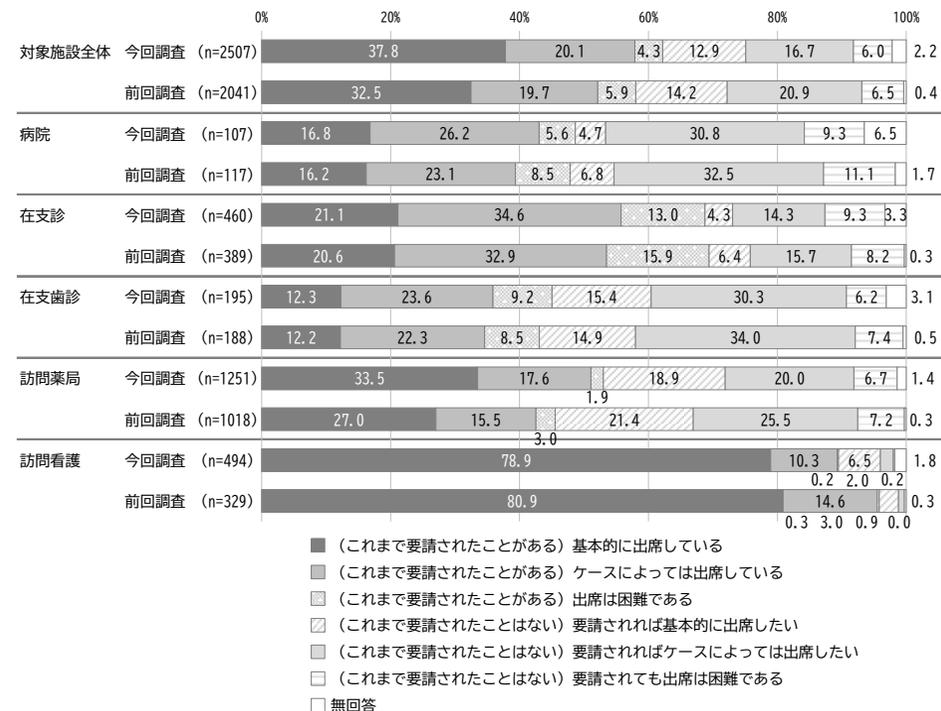
病院からの入退院カンファレンスへの出席要請有無及び対応について



- 出席要請されたことがある割合は、訪問看護が86.2%、在支診が53.9%、在支歯診が14.4%、訪問薬局が13.8%の順である。
- 出席要請の有無にかかわらず、「基本的に出席」「ケースによっては出席」と出席意向がみられる割合は、訪問看護が97.5%、訪問薬局が87.9%、在支歯診が79.5%、在支診が73.8%の順である。

サービス担当者会議

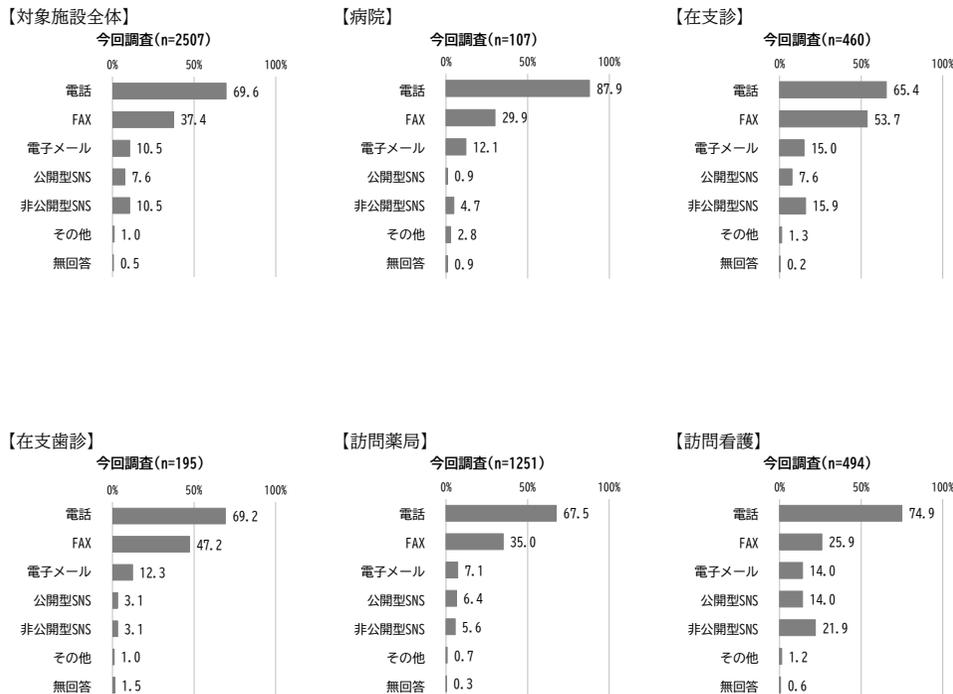
サービス担当者会議への出席要請有無及び対応について



- 出席要請されたことがある割合は、訪問看護が89.4%、在支診が68.7%、訪問薬局が53.0%、病院が48.6%、在支歯診が45.1%の順である。
- 出席要請の有無にかかわらず、「基本的に出席」「ケースによっては出席」と出席意向がみられる割合は、訪問看護が97.7%、訪問薬局が90.0%、在支歯診が81.6%、病院が78.5%、在支診が74.3%の順である。

他職種・他機関との連携手段

地域のお職種・他機関との連携手段について(複数回答)

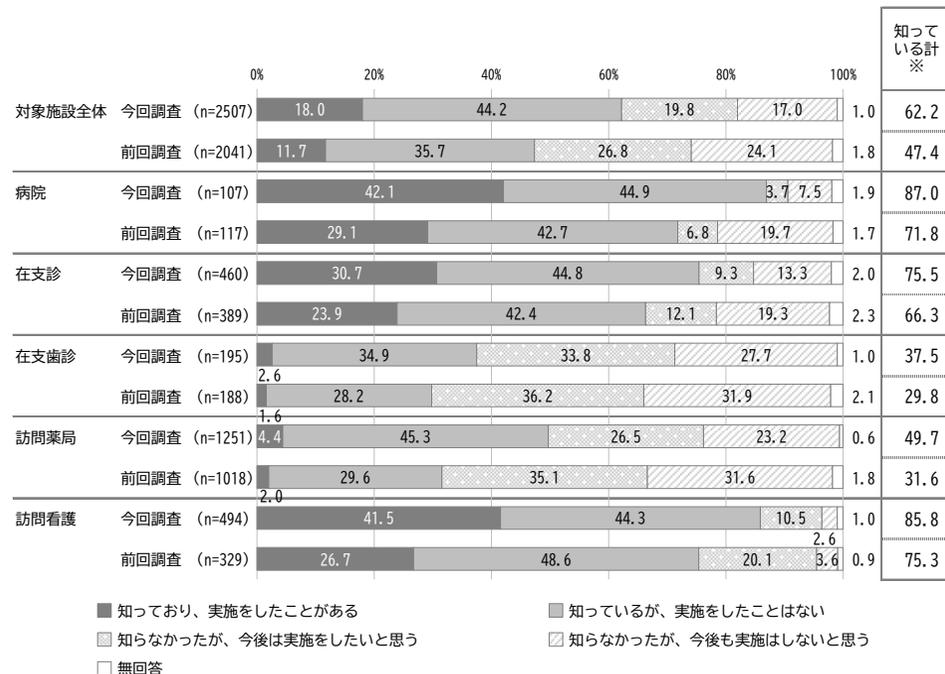


- 施設全体では、「電話」が69.6%、「FAX」が37.4%、「電子メール」「非公開型SNS」が10.5%の順である。
- いずれの施設でも、「電話」、「FAX」の順である。

ACP(人生会議)の実施状況

ACP(人生会議)の実施について

▶ 「知っている」の合計 **62.2%**



※ 「知っている、実施をしたことがある」「知っている、実施をしたことはない」の合計

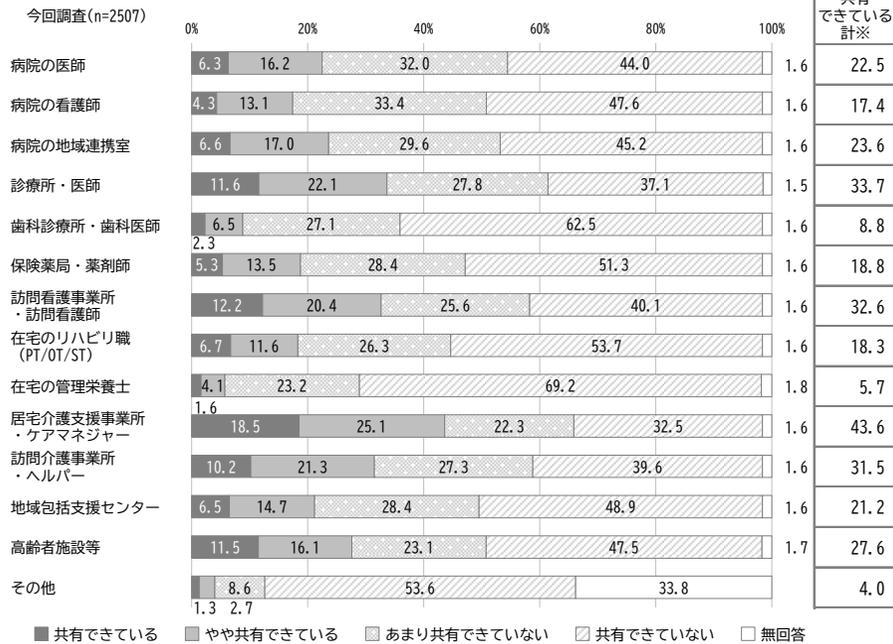
- ACPの認知度は、施設全体では62.2%、施設別では、病院が87.0%、訪問看護が85.8%、在支診が75.5%、訪問薬局が49.7%、在支歯診が37.5%の順であり、いずれの施設でも前回調査より増加している。
- ACPの実施率は、病院が42.1%、訪問看護が41.5%、在支診が30.7%と、前回調査より増加している。

③連携推進の課題

ACPについての情報共有

意思決定支援やACPの内容について、地域他職種・他機関とどのくらい意見交換・共有ができていますか

【対象施設全体】

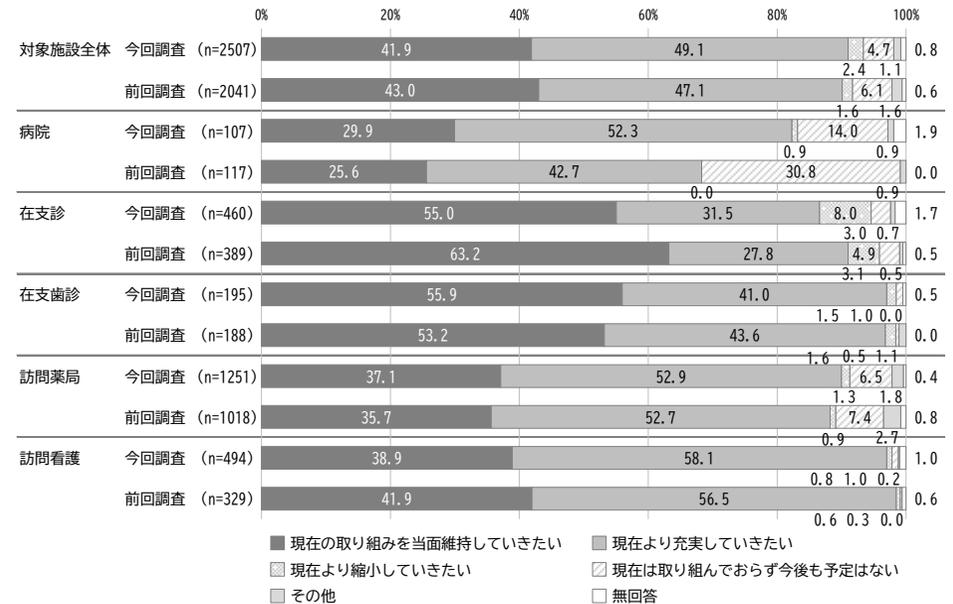


※ 「共有ができていない」「やや共有ができていない」の合計

- 「共有ができていない」、「やや共有ができていない」の合計は、「居宅介護支援事業所・ケアマネジャー」、「診療所・医師」、「訪問看護事業所・訪問看護師」、「訪問介護事業所・ヘルパー」の順である。

在宅医療の今後の意向

在宅医療の取り組みに関する今後の意向について

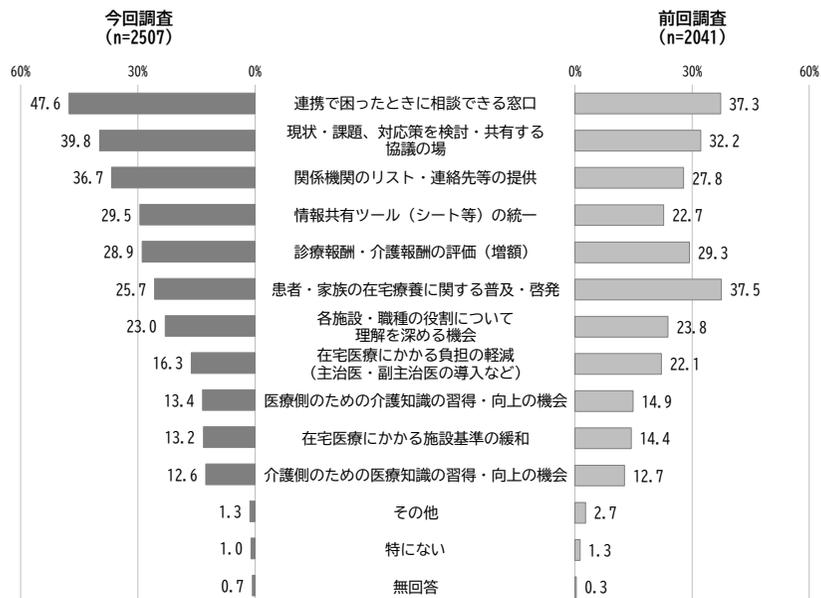


- 施設全体では「現在より充実していきたい」が49.1%、「現在の取り組みを当面維持していきたい」が41.9%の順である。
- 病院、訪問薬局、訪問看護では「現在より充実していきたい」が、在宅診療、在宅歯診では「現在の取り組みを当面維持していきたい」が多い。

在宅医療・介護連携の推進に必要なこと

在宅医療・介護連携の推進のために必要だと考えることについて(複数回答)

【対象施設全体】

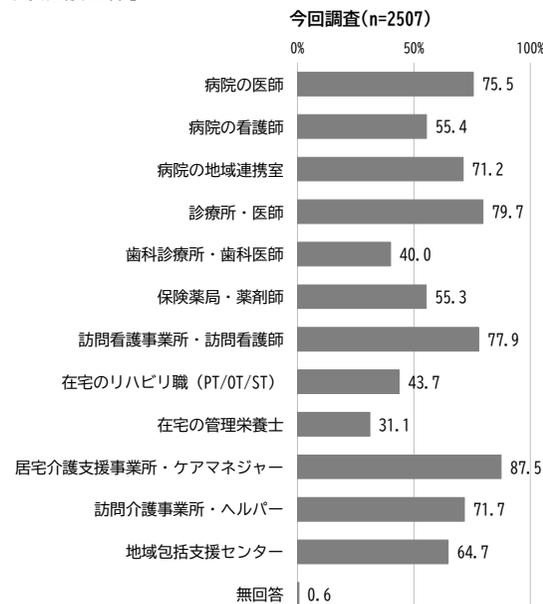


- 「連携で困ったときに相談できる窓口」、「現状・課題、対応策を検討・共有する協議の場」、「関係機関のリスト・連絡先等の提供」の順である。

連携が必要と考える他職種・他機関

地域との連携において、必要と考える他職種・他機関について

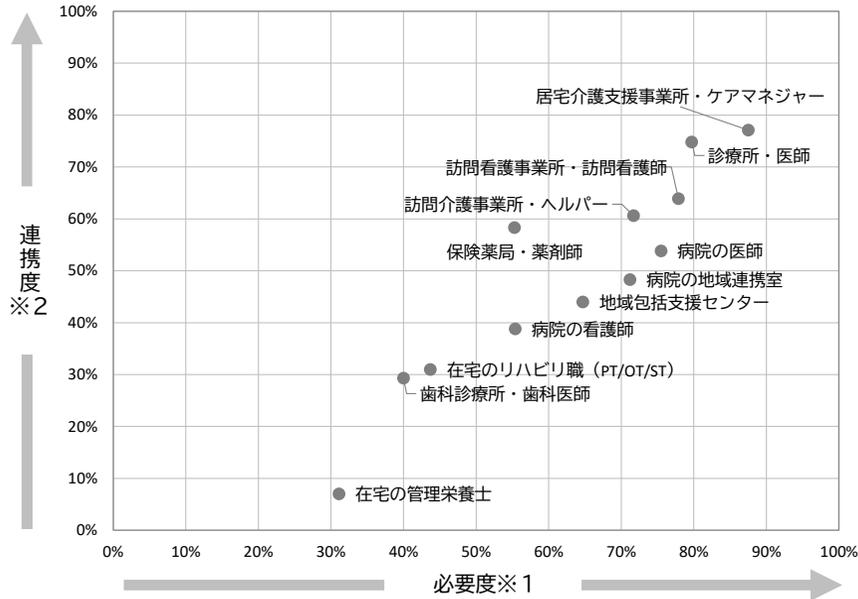
【対象施設全体】



- 「居宅介護支援事業所・ケアマネジャー」が87.5%、「診療所・医師」が79.7%、「訪問看護事業所・訪問看護師」が77.9%の順である。

[参考]他職種・他機関との必要度と連携度

【対象施設全体】 今回調査(n=2507)



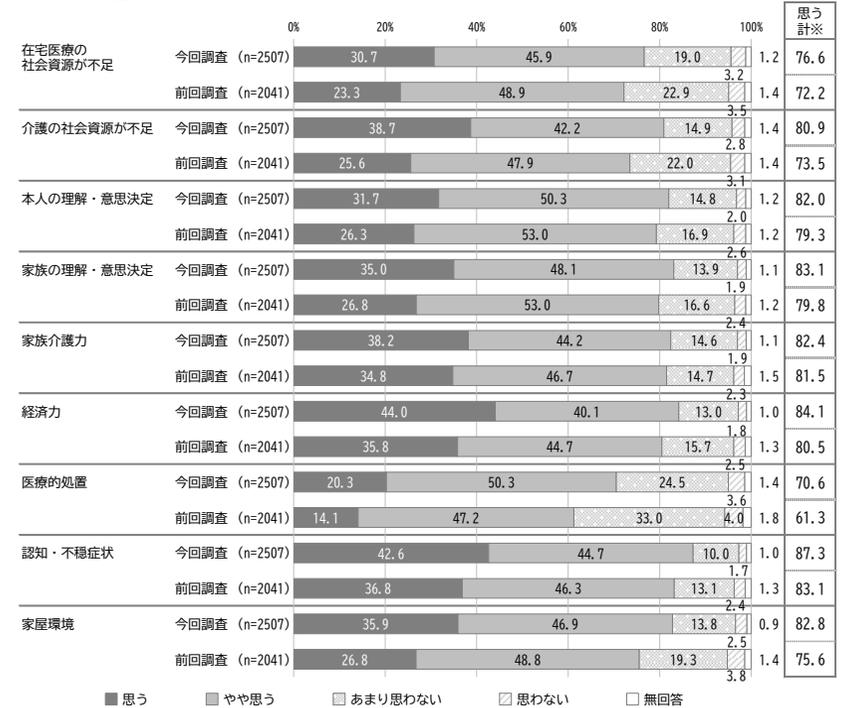
※1 必要度：連携が必要と考える他職種・他機関

※2 連携度：「他職種・他機関との連携度」の「連携できている」「やや連携できている」の合計

在宅療養継続の課題

地域での在宅療養を継続するのに苦慮する課題について

【対象施設全体】

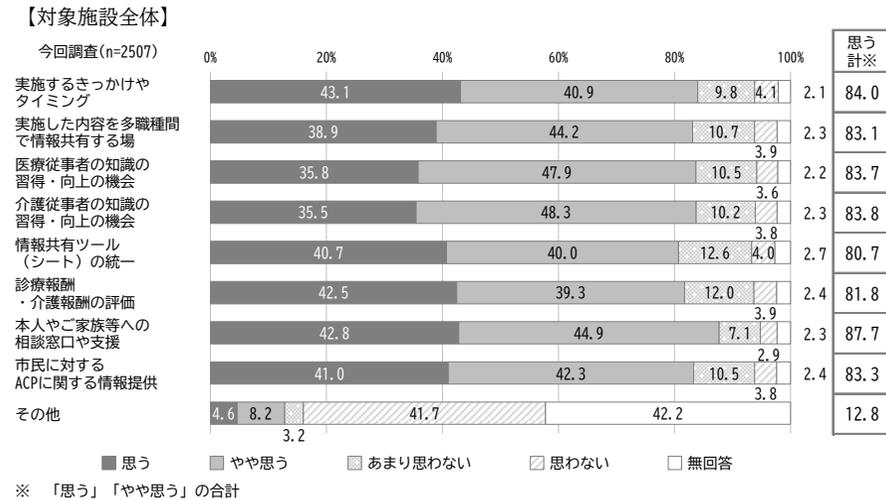


※ 「思う」「やや思う」の合計

- 「思う」「やや思う」の合計は、「認知・不穏症状」、「経済力」、「家族の理解・意思決定」の順である。

ACP実施における課題

意思決定支援やACPの実施において、課題だと考えることについて

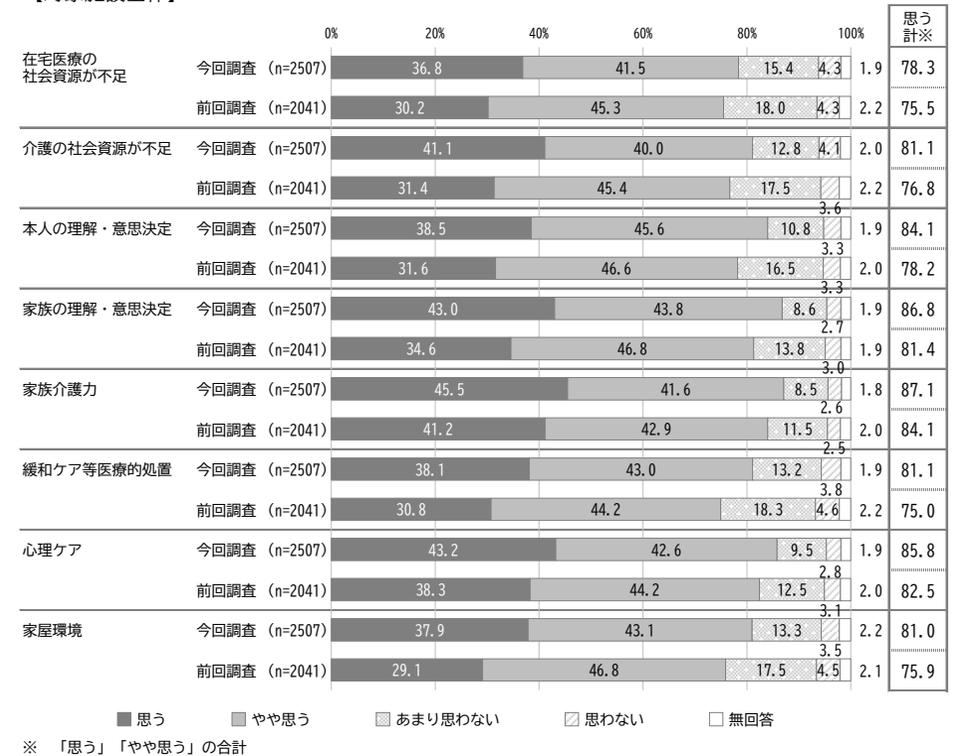


- 「思う」「やや思う」の合計は、「本人やご家族等への相談窓口や支援」、「実施するきっかけやタイミング」、「介護従事者の知識の習得・向上の機会」、「医療従事者の知識の習得・向上の機会」の順である。

看取りの課題

在宅での看取りにおいて、課題だと考えることについて

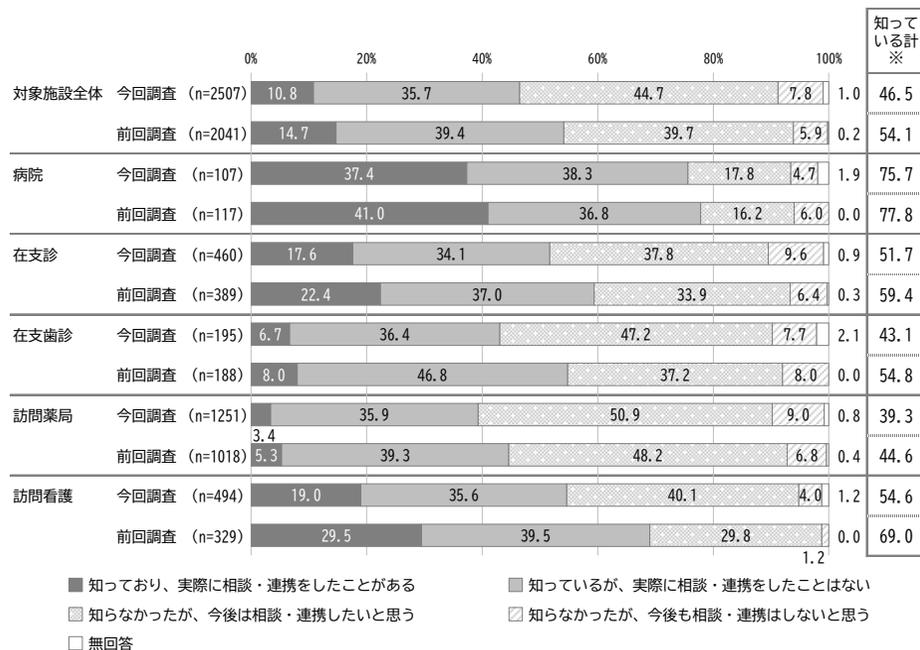
【対象施設全体】



- 「思う」「やや思う」の合計は、「家族介護力」、「家族の理解・意思決定」、「心理ケア」の順である。

在宅医療・介護連携相談支援室

大阪市「在宅医療・介護連携相談支援室」についての認知と利用実績について

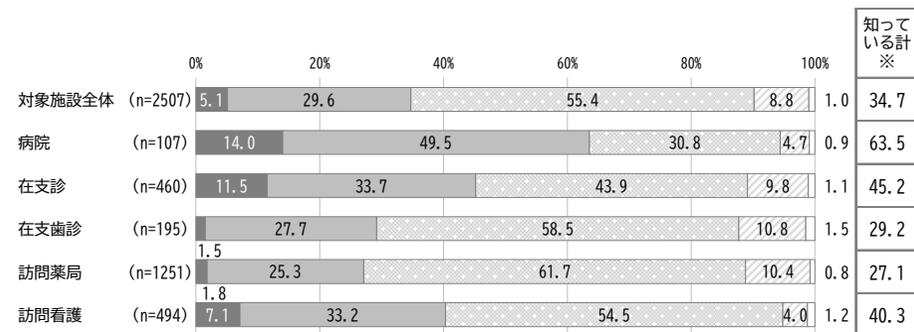


※ 「知っているが、実際に相談・連携をしたことがある」「知っているが、実際に相談・連携をしたことはない」の合計

- 「知っている」の合計は、施設全体では46.5%と、前回調査より減少している。
- 施設別では、病院が75.7%、訪問看護が54.6%、在支診が51.7%、在支歯診が43.1%、訪問薬局が39.3%の順である。

在宅医療連携拠点の相談支援室

大阪市「在宅医療連携拠点の相談支援室」についての認知と利用実績について



■ 知っており、実際に相談・連携をしたことがある
 ■ 知っているが、実際に相談・連携をしたことはない
 ■ 知らなかったが、今後は相談・連携したいと思う
 ■ 知らなかったが、今後も相談・連携はしないと思う
 □ 無回答

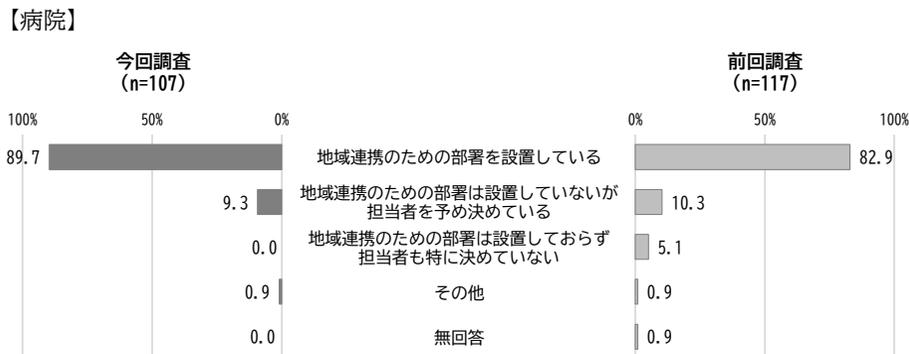
※ 「知っており、実際に相談・連携をしたことがある」「知っているが、実際に相談・連携をしたことはない」の合計

- 「知っている」の合計は、施設全体では34.7%、施設別では、病院が63.5%、在支診が45.2%、訪問看護が40.3%、在支歯診が29.2%、訪問薬局が27.1%の順である。

④ 実績

病院における地域連携の体制/部署の設置率

地域連携のための部署の有無について



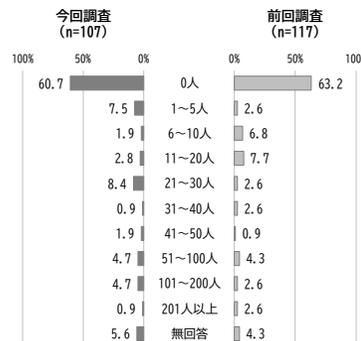
- 「地域連携のための部署を設置している」が89.7%と、前回調査より増加している。
- 「地域連携のための部署は設置しておらず、担当者も特に決めていない」は0.0%である。

診療等の実績

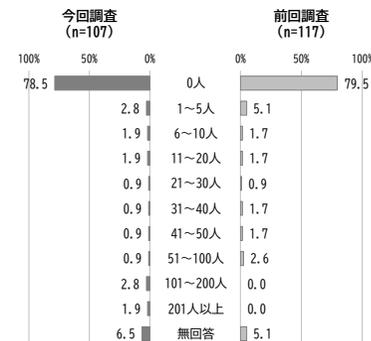
令和6年7月の1ヶ月間の診療等の実績について

【病院】

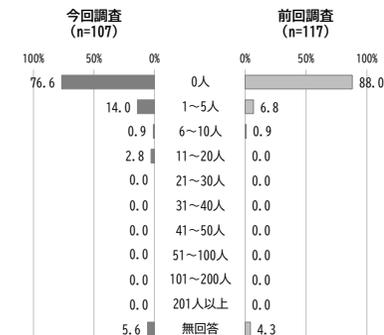
① 訪問診療及び往診を実施した実人数



② 訪問看護を実施した実人数



③ 医師による在宅での看取りを実施した人数※



※令和5年8月～令和6年7月の1年間

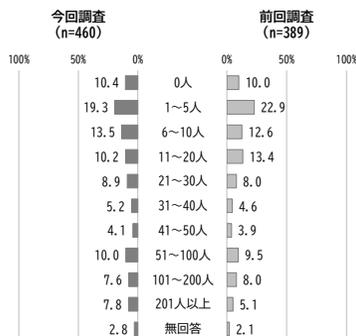
【病院】

- 「訪問診療及び往診」は、33.7%で実施しており、「21~30人」が最も多い。
- 「訪問看護」は、15.0%で実施しており、「1~5人」「101~200人」が最も多い。
- 「医師による在宅での看取り」は、17.8%で実施しており、前回調査より増加している。

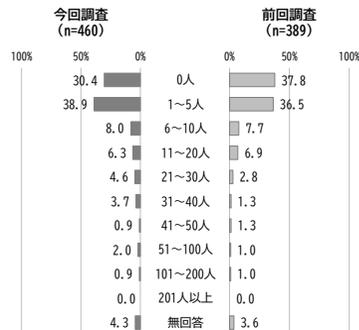
診療等の実績

【在宅診】

① 訪問診療及び往診を実施した実人数



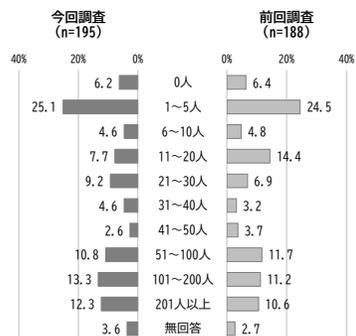
② 医師による在宅での看取りを実施した人数※



※令和5年8月~令和6年7月の1年間

【在宅歯診】

① 訪問診療及び往診を実施した実人数



【在宅診】

- 「訪問診療及び往診」は、86.8%で実施しており、「1~5人」が最も多い。
- 「医師による在宅での看取り」は、65.3%で実施しており、前回調査より増加している。

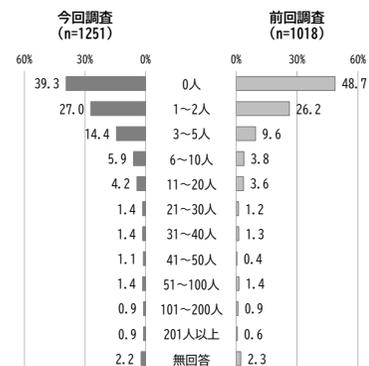
【在宅歯診】

- 「訪問診療及び往診」は、90.2%で実施しており、「1~5人」が最も多い。

診療等の実績

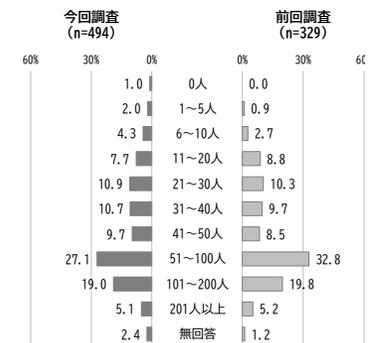
【訪問薬局】

① 訪問薬剤管理指導を実施した実人数

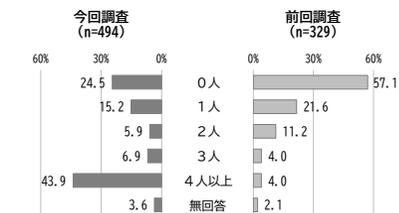


【訪問看護】

① 利用実人員数



② 死亡者のうち、在宅で死亡した利用者数※



※令和5年8月~令和6年7月の1年間

【訪問薬局】

- 「訪問薬剤管理指導」は、58.5%で実施しており、前回調査より増加している。

【訪問看護】

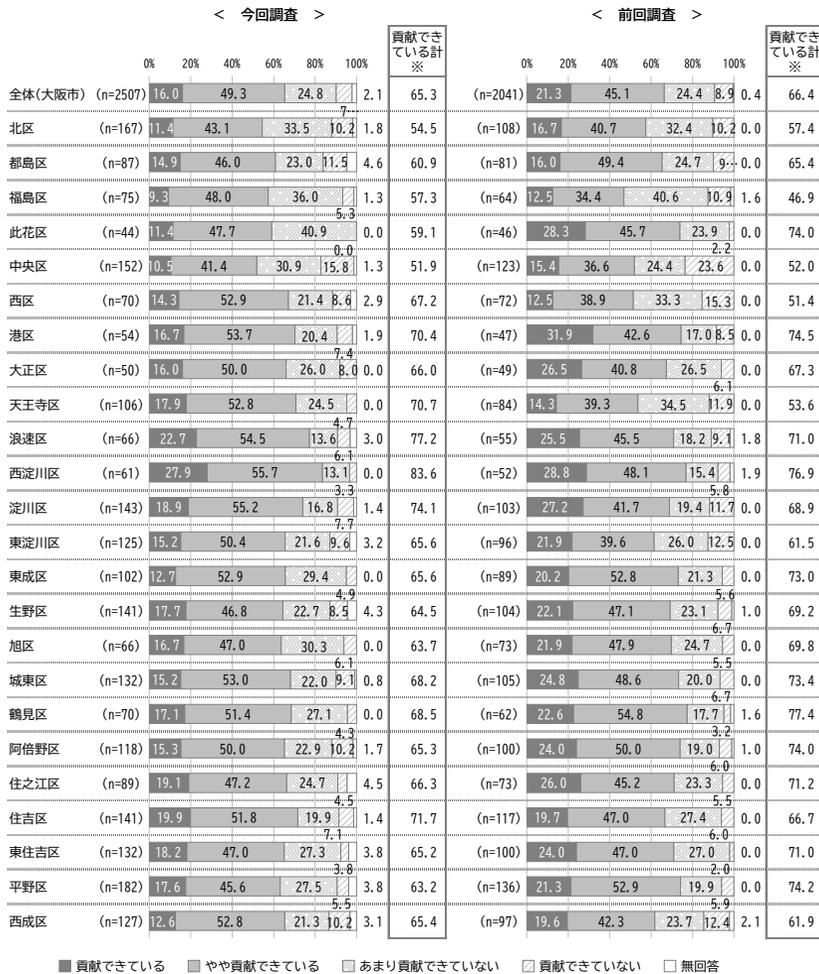
- 「訪問看護」は、96.6%で実施しており、「51~100人」が最も多い。
- 「在宅で死亡した利用者」のいる施設は71.9%で、前回調査より増加している。「4人以上」が最も多い。

参考(区別集計)

貢献度

地域の在宅医療の推進に対して、どのくらい貢献できていると思いますか

【対象施設全体】

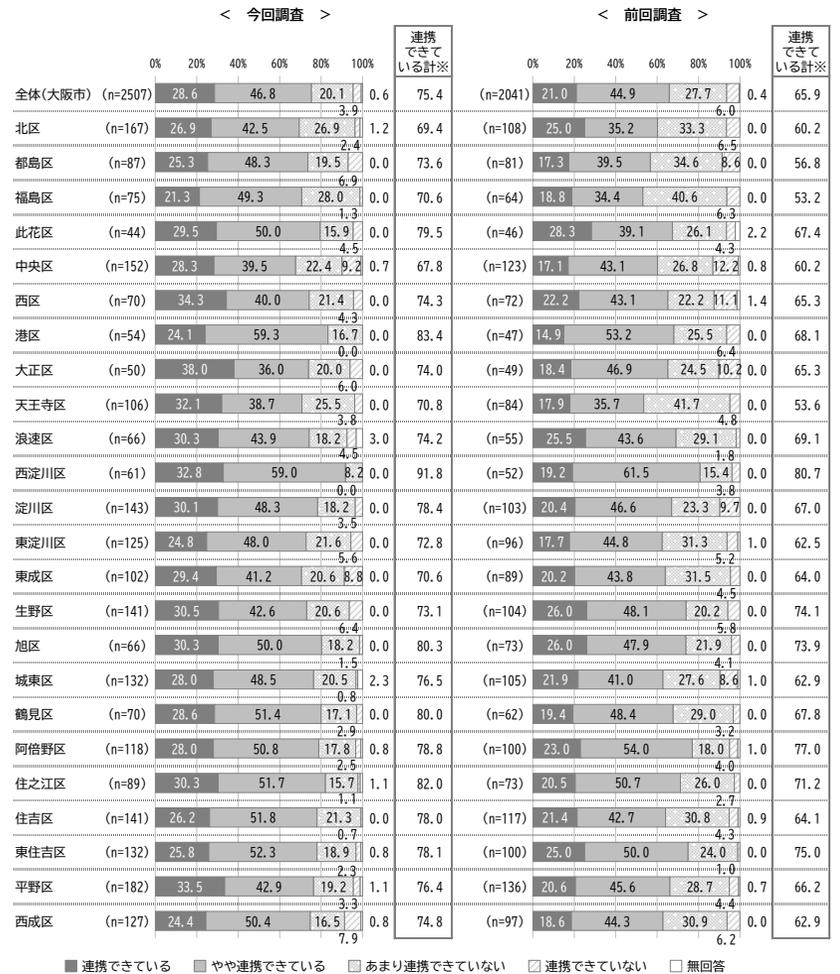


※ 「貢献できている」「やや貢献できている」の合計

連携度

地域の他職種・他機関と、全般的に、どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか

【対象施設全体】

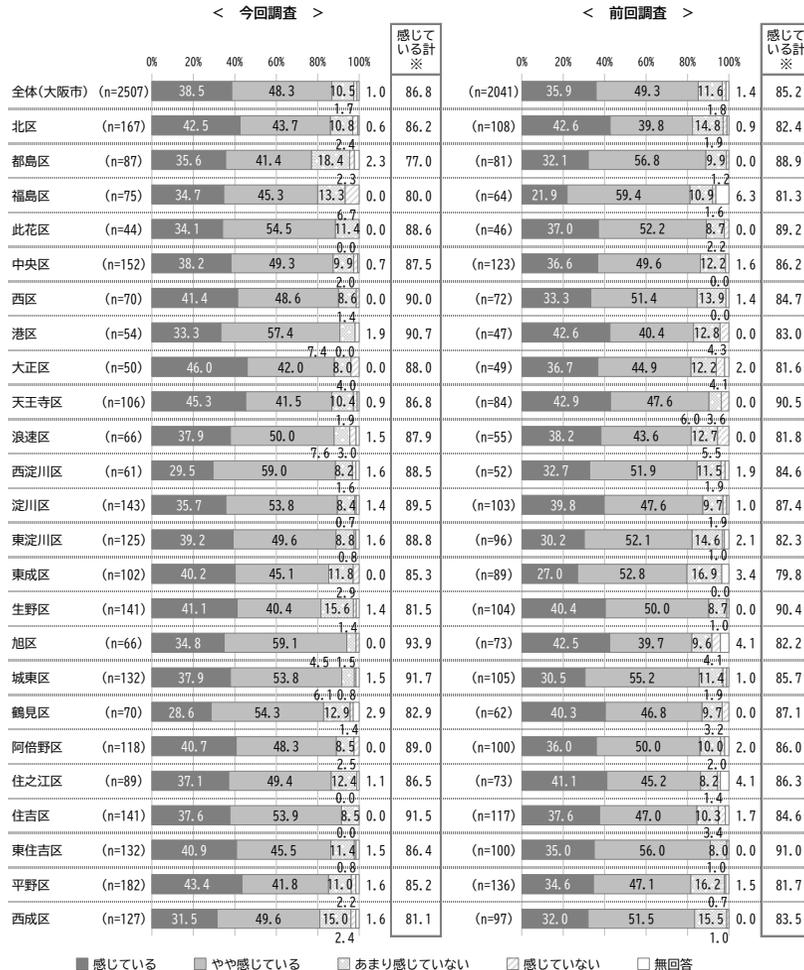


※ 「連携できている」「やや連携できている」の合計

満足度

あなたは、貴施設での仕事に満足感を感じていますか

【対象施設全体】



※ 「感じている」「やや感じている」の合計

① アウトカム指標

- 貢献度と満足度は前回調査と同程度であるが、連携度は増加しており、特に病院と訪問薬局において増加している。
- 職種・機関別連携度において、「保険薬局・薬剤師」「歯科診療所・歯科医師」が前回調査より増加している。
- 療養場面別連携度は前回調査より増加しているものの、「看取りについての対応方針」は5割を下回ったままである。

② プロセス指標

- 入退院カンファレンスにおいて、「院内の医師」への参加要請の割合は前回調査より増加している。
- 入退院カンファレンスにおいて、院内関係者や在宅関係者との日程調整が課題となっている。
- 他職種・他機関との連携手段は、電話が約7割と最も多く、FAX、電子メール、非公開型SNSの順である。
- ACPの認知度はいずれの施設でも前回調査より増加しており、ACPの実施率は病院、在宅、訪問看護で増加している。

③ 連携推進の課題

- 在宅医療・介護連携の推進に必要なことは、「連携に困ったときに相談できる窓口」「現状・課題、対応策を検討・共有する協議の場」「関係機関のリスト・連絡先等の提供」の順である。
- 連携が必要と考える他職種・他機関は、「居宅介護支援事業所・ケアマネジャー」「診療所・医師」「訪問看護事業所・訪問看護師」の順である。
- 在宅療養継続においては「認知・不穏症状」「経済力」「家族の理解・意思決定」が、看取りにおいては「家族介護力」「家族の理解・意思決定」「心理ケア」が課題である。
- ACP実施の課題は、「本人やご家族等への相談窓口や支援」「実施するきっかけやタイミング」「介護従事者・医療従事者の知識の習得・向上の機会」の順である。
- 「在宅医療・介護連携相談室」の認知度は、前回調査より減少している。